



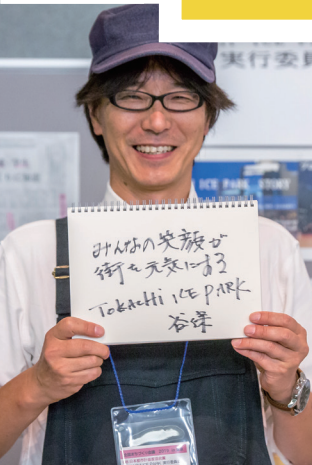
Planning at the Grassroots

～街と人をつなぐために～

日本都市計画家協会のまちづくり活動を知る
2023

JSURP

認定NPO法人 日本都市計画家協会



Introduction

「まちづくりの力で 社会問題を解決する」

日本都市計画家協会は、都市・地域づくりの専門家だけでなく、まちづくり活動を実践している人、復興支援に興味がある人、まち暮らしやまちづくりに興味がある人、まち歩き好きな人、企業のまちづくり担当の方などの多様な人たちが参加し、まちづくりを通して社会に貢献しようと連携や協力をしながら自主的に活動している非営利組織です。

社会・経済が激変していた1993年に、パッションを持つ有志によって設立し、2001年8月に全国の「草の根まちづくり」を支援する特定非営利活動法人(NPO)となりました。私たちは、暮らし働き楽しむ場である「まち」とそれを取り巻く環境を、安心で快適に、健康で美しくなるよう進化させ、育んでいきたい(=まちづくり)と考えています。

まちづくりは行政や専門家だけに任せておくものではありません。まちに暮らす人や使う人、そして働く人たちみんなが、自分たちのこととして手を携えて取り組んでこそ、良いまちに進化させることができると考えています。このような考えで、全国の各地域はもちろん、多様な立場の方々とも連携・交流を図り、日々、共創・行動・発信をしています。

2020年2月からは認定NPOとして、「まちづくりの力で社会問題を解決する」ことをミッションとし、防災・復興、多様性(ダイバーシティ)、交流、連携、レジリエンスをキーワードに、まちづくりのプロセスを提案して地域の活動を後押しし、全国各地の実践のノウハウを共有することで、課題解決の知恵の普及を進めています。



JSURP 会長 山本俊哉

博士(学術)、明治大学教授。専門は建築・都市計画、安全学。
都市計画コンサルタントとして20年間の実務経験を経て大学の専任。
2022年6月より当協会会長。

全国各地に及ぶ JSURPの活動場所

1993年から現在までに行われた、まちづくりのプロジェクト数は、2020年7月時点で約100ヶ所に達しています。全国各地に及ぶ活動拠点は、北は北海道から南は鹿児島県まで。こちらの地図ではそれらの活動拠点を記しています。



震災後の復興まちづくりの知見を三陸の地域間で共有するために始めた三陸まちづくりフォーラムは、2015年から4回開催され三陸各地のキーマンの交流の場となっている。

岩手県 大船渡市

全国まちづくり会議 2020/2021 in 大船渡 (2021.11.27)



2020年は「三陸分科会」「全国災害被災地分科会」をオンライン配信による連続セッションで、2021年は「取りまとめ会議」を大船渡にて開催。

兵庫県 神戸市

全国まちづくり会議 2012 in KOBE
再生の時代を拓くまちづくり (2012.9.29-30)



福岡支部



鹿児島県 屋久島町

地域まちづくり出前講座 (2019.12.13)



北海道恵庭市で開催した全国まちづくり会議は、ガーデンシティ恵庭市の名にふさわしく、東京農大の進士教授の基調講演でスタート。地元で大歓迎されている開催となった。

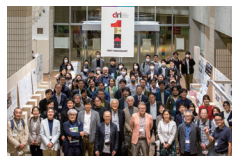
北海道 恵庭市

全国まちづくり会議2008北海道
地域力・エンパワーメント (2008.10.4-5)

北海道支部

東京都 墨田区

全国まちづくり会議2022
in 東京・すみだ
まちづくりの原点を探る
(2022.10.8-9)



まちづくりの長い歴史と、近年の災害の頻発、コロナによる社会的なインパクトなどもふまえ、まちづくりの原点を考え、未来のまちづくりを展望するテーマで実施した。

神奈川支部

静岡支部

2019年の地域まちづくり出前講座は数多くの地域にお邪魔したが、最南端は屋久島町。町役場の若い職員を対象に、町民を上手く巻き込んでいくためのプロセスについて考えた。

地域との関わりの中で まちづくりの輪を広げる。

内山 征

(都市計画・まちづくりのコンサルタント)
住民団体や商店街、企業等が主体となる地域のまちづくりを専門に活動。



地域資源を探すために まちあるきを実施

2013年に越喜来地区(浦浜泊地区)の復興まちづくりを開始するにあたり、地域資源を探し、確認するための「まちあるき」を実施。地域住民や支援者等50人以上で、まち全体を点検しました。



JSURPは幅広いまちづくりの知識をもった会員が所属した、地域主体のまちづくりを推進する組織です。私の活動は、地域との関わりの中でまちづくりの輪を広げていくことと考えています。地域からのニーズを把握し、適切な人材の派遣を行い、まちづくりを支援しています。

これまで東日本大震災の復興支援事業の一環で「陸前高田未来商店街」や「大船渡市越喜来地区のまちづくり支援」に関わってきました。また、コミュニティデザイン普及事業を立ち上げ、

地域主体の「まちづくり出前講座」や、冊子「みんなのまちづくりNOTE」の制作を通してJSURPの活動を行っています。

今後も、コミュニティデザイン普及事業やまちづくり相談事業などの活動を通じて、ノウハウの提供やまちづくりの実践の支援を行い、地域主体のまちづくりを推進していきます。

自分の住むまちを良くしたいと思っている方々、まちの課題解決に地域の力が必要になっている自治体の担当者の方々、JSURPまでご連絡をお待ちし



“ど根性ポプラ広場”は 地域のコミュニティの中心に

奇跡に残ったポプラの木をシンボルとし、コミュニティのプレイスとなる広場を、復興庁の補助金を活用し整備しました。地域運営組織を結成し、この広場を管理するとともに、マルシェ等に活用しています。

まちづくりの相談はもちろん、場合によっては一緒に、まちづくりの活動もさせていただきます。



まちづくりを始めた人が、最初に読む冊子「みんなのまちづくりNOTE」を作成。JSURPのWEBでも公開中。

NPOの活動を通して 感性をブラッシュアップする。

渡会清治

(都市計画プランナー)
都市プランナーとして地区から国土レベルまでのマスタープランの策定やまちづくりの仕組みづくりに携わる。



2



世代を超えたセッションで まちづくりの未来を創る

半世紀に渡って都市計画の世界を切り開いてきたレジェンド達と若い世代によるトークセッション(写真上)。全まち2018福岡大会で大阪、大船渡、油津、佐賀多久、福山、福岡のまちづくり担い手セッション(写真右)。



住民と共に活動 復興まちづくりを支援

JSURPでは東日本大震災の復興まちづくりを協会を挙げて支援してきました。大船渡市の越喜来地区での支援イベントのーコマ(写真上)。大船渡市中赤崎地区で復興まちづくりを組み立てる住民ワークショップ(写真下)。

2010年の総会でJSURPの副会長となり、2018年までの4期、8年間務めました。この間、2011年3月に東日本大震災が発生し、協会としての支援活動の組立てと実践に向け、協会会員を主体とする震災復興タスクフォースを立ち上げ、関連団体等との連携や協働のもとで被災地支援活動や多くのシンポジウム・セミナーなどを企画・実施しました。また、2014年の協会事務所移転を機に「JSURPまちづくりカレッジ」や「J'sカフェ」などの新しい活動も企画しています。

協会活動は私にとっては「遊び」であり、自分の感性をブラッシュアップする場として大事にしています。それが結果的に社会や組織(協会)にとって、意味あるものになれば、なお良しと言うスタンスで関わっています。

協会活動に参加する方は、感性や知性を刺激しながらブラッシュアップして、また各々の場に戻る、協会がそのような場であるようにと願っています。

協会の活動をさらにパワーアップするため、2020年6月に事務所が移転し、私自身も同年6月の

総会で専務理事となりました。アフターコロナを展望しつつ当面のウイズコロナ時代のNPO活動を積極的に展開します。



東日本大震災で被災した住民・地区が主体となって開催された「三陸沿岸復興まちづくりフォーラム」

まちづくりに関わる“個”が 成長し、繋がるJSURPの活動。

長谷川隆三

(都市計画コンサルタント)
エリアマネジメントを中心
にマネジメント型の都市づ
くりを実践。



世界の方々と“まちづくり”を 議論できる場所を運営

事務局として運営に係わっている全国エリアマネジメントネットワークでは、世界各地で活動するBIDのマネージャーが集まり、世界各地の情報交換を行うと共に、エリアマネジメントのこれらを議論する場を提供しています。



都 市計画のコンサルタントとして主に環境まちづくり、低炭素都市づくり、情報インフラでの都市における社会課題解決や付加価値創造などのテーマに係わってきました。ここ数年はエリアマネジメントの領域に取り組み、各地の方々と議論をしながら、地域の価値を高めていくためには、どう進めていけば良いのかといった戦略づくりをしています。さらに各地のエリアマネジメント組織をつなぐネットワーク団体の立ち上げとその運営も行い、日々エリアマネジメント組織の

皆さんと連携、議論を行い、活動をしています。

JSURPの活動としては、東北の復興支援の「大船渡市越喜来地区のまちづくり」についてチームメンバーの一人として関わり、まちづくりカレッジでは企画段階から参加して講座のプロデュースを担当。最近では開催頻度が落ちてしまいましたが、J'sカフェの企画運営も行っています。

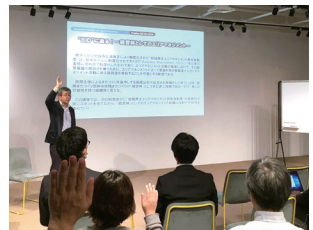
JSURPは都市計画、まちづくりに携わる方々が“個”として成長し、“個”が繋がっていく場として重要な役割を果たしている



机上だけでなく実践も 復興支援の“まちづくり”

大船渡市の越喜来地区の復興に向けたまちづくりを、協会のメンバーと共に支援。机上での話し合いだけでなく、実際にフィールドに出て、地域の方々と汗をかきながら復興に向けた取り組みを進めています。

と思います。今後もその役割を強化し、強力な“個”が育って行くような場になるよう様々な機会を作っていきたいと思います。



まちづくりカレッジでは、エリアマネジメントや、まちづくりのファイナンスをテーマとした講座を担当。

まちづくりカレッジ参加者と 共に成長できる活動を。

園田 聡

(都市デザイン・コンサルタン
ト)

大阪と東京を拠点にプレイ
スメイキングを実践する。



4



カレッジは交流を通じて 学べる場として機能

「食と都市」の講座では、プログラムの一環として「美食倶楽部」の仕組みを体験。お店のキッチンを借りて受講生の皆さんとワイワイ料理をしながら、食と流通、そしてそこで生まれるコミュニティについて学びました。



多彩な講師陣から学ぶ 魅力あるプログラム

まちづくりカレッジは、1テーマで5回の連続講座として開講しています。多彩な講師陣をお招きしての座学はもちろん、様々な業界から集まっていたいただいた受講生のみなさん同士での交流もカレッジの魅力の1つです。

都 市に「豊かな暮らしのシーン=Public Life」を増やすこと目指し、プレイスメイキングというプロセス・デザインの手法を用いて大阪を拠点に活動をしています。実務では、水都大阪プロジェクト(大阪市)や、あそべるとよたプロジェクト(豊田市)などの事業について、計画策定の先の事業構築までを業務領域としながら、理論だけでなく実際に都市の風景を変えていくプロセスをデザインしています。

そのような活動を進めていく中で、JSURPにご縁をいただき

2016年より理事に就任し活動しをしています。まちづくりカレッジでは2015年から「公共空間や都市評価をテーマした講座」をプロデュース、2019年に開催した「食が結ぶ都市と地方/生産と消費」講座では多様な属性・世代の方に参加いただき、都市に携わる職能人として考えるべき領域の広がり、改めて可能性と責任を感じました。

JSURPは学会でも企業でもない“まちづくり”の専門家集団です。街での多様な人たちとの繋がりに感じられた都市の可能性を

共有し、それをこれからの社会に対して常に前向きなメッセージを発信できる組織でありたいと考えています。



実務では各地の現場に入り、公民連携による都市デザインの実現を支援しています。写真は愛媛県豊田市の「とよしば」

世の中の潮流を掴んで 街づくりの方向性を探る。

臂 徹

(タウンマネージャー、都市計画プランナー)
群馬県出身。社会人生活は東北が一番
長くなりました。プランナーの視点も
大切に、実践道を極めます。



「まちづくりプランニングの現場」、「東北復興からまちづくりへ」、
まちづくり出前講座 in 南三陸町志津川地区に参加。



ランニング会社などを
経営する傍ら、岩手県
大船渡市の中心市街地にお
いて、再開発とエリアマネジ
メントを担うまちづくり会社
「キャッセン大船渡」で、タウン
マネージャーを務めています。

最近では近隣市町村からアド
バイザー要請を受ける機会も
多い中、協会の活動としては、
令和元年度、宮城県南三陸町
にて中心市街地志津川地区の
土地活用を加速させるため、
復興庁事業の一環で他の理
事と一緒に、事業者や住民向
けの出前講座を提供しました。

都市計画の役割が広がりつ
つある中で、自身の立ち位置

を確認しながら世の中の潮流
や他の方々の活動を深く知り、
取り組みを拡張していく上で、
JSURPの存在は欠かせませ
ん。今後も三陸地域において、
他地域の担い手の方々とも連
携し、まちづくりのネクスト
ステップを踏み続けていきた
いと考えています。

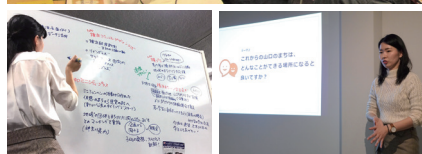


整備コストを抑えつつ、仕組みと活
動で如何に魅力を引き出すか。キャッ
セン大船渡は試行の場。

新しい情報に触れながら 交友関係をつくれる場に。

田嶋麻美

(まちづくりコンサルタント)
Uターン後のテーマは「暮らしの豊か
さにつながるまちづくり」。多様な地
域人材との連携を模索中。



まちづくり出前講座@屋久島町(2019年)、全国まちづくり会
議ポスターセッション(2017年、横浜開催)に参加。



年程前に地元・山口県
に戻り、現在は、中心
市街地の市街地整備や民間
主体のまちづくりの下地づく
りなどに取り組んでいます。

JSURPの活動に関わり始
めたのは2015年頃。全国ま
ちづくり会議の実行委員会へ
の参加を通して、協会の皆さ
んや活動について徐々に理解
していくことができました。
まちづくりカレッジやJ'sカフェ
は刺激が多く、いつも参加を
楽しみにしていました。サマー
キャンプ2016「新たな都市
プランニング・アーバンズ
ムとシゴト」では、まちづくりの
仕事に携わる女性を集めた

トークセッションを担当させ
ていただきました。

私にとって都市計画家協会
の活動は、普段の仕事と離れ
てフランクに新しい情報に触
れたり、交友関係をつくれた
り学べる場です。今後も、マ
イペースながら全国での活動
に参加できればと思います。



2019年、小金井公園で行われた復
興まちづくりキャンプにて。仮設市
街地にJSURP仮設事務所を設置。

会報誌、WEB、SNSを通じて まちづくりの情報を発信。

佐谷和江

(まちづくりコンサルタント)
ワークショップのファシリテーターを
多数担当。オンラインなどの新しい市民
の意見形成の手法を模索中。



7



段は都市計画コンサルタント、まちづくりコーディネータを行い、最近ではコミュニティ政策や、地域包括ケアシステムなどの業務、人材育成などに関わっています。

市民活動に詳しくことから、2001年からJSURP協会賞の立ち上げ時の委員長を担当。その後、協会のWEBとSNS、協会誌「Planners」の81~90号を編集長として制作しました。



江戸川区が設立した生涯学習機関「江戸川総合人生大学」に、まちづくり系の学科長として関わり、多数の活動グループの誕生を支援。

各地のまちづくりイベントは その土地を知る、良い機会。

富士川一裕

(まちづくりプランナー)
大学大学院修了後、10年間コンサルタント事務所勤務の後、1986年郷里熊本に都立計画事務所を設立し今日に至る。



8



しい公共」をテーマに掲げて開催された「全国まちづくり会議2010」は、九州新幹線の乗り入れや政令指定都市移行を前にした熊本県熊本市で開催。熊本まちなか工房が開催地事務所と運営を担い、東京本部と力を合わせて開催しました。地元自治体職員の協力や女性の会の手料理などにより、ご当地のカラーが出るのも全国まちづくり会議の見どころです。



2019年9月に行われた「全国まちづくり会議2019 in 東京」でのポスターセッション。車座討論会は、あいかわらずの盛況。

丁寧理解し、大胆に構想し 丁寧動く。そのための触発の場。

加藤孝明

(大学教授、工学博士)
愛知県生まれ。理論研究の他、社会の慣性の法則から飛び出すべく、まちづくりの新しいモデルを実践的に模索する。



9



日本大震災復興タスクフォース、全国まちづくり会議実行委員会、首都直下地震復興グランドデザイン研究会等に参加してきました。いずれも相互触発の場として機能する充実した内容で、老若男女、多様なセンスを持つ魅力的なプランナーとの議論や活動は、自分自身の研究や実践活動にとって、縦割横断的に発想して動くための大変良い刺激となっています。



2015年の全国まちづくり会議では、数々の講演の他に韓国との交流、被災地を撮る映画監督を主軸とするセッション等、多様な交流が図られた。

第4回三陸沿岸まちづくりフォーラム(2019.9)

Event Report

全国まちづくり会議

全国まちづくり会議は、全国各地で活動する“草の根まちづくり団体”や、まちづくりの専門家、プランナーが年1回集まり、情報交換と交流をするイベントです。



全国まちづくり会議2018 in福岡 (@九州大学) 開会式は工学部の立派な講堂で(写真上)。全国まちづくり会議2022 in 東京・すみだ (@千葉大学墨田サテライトキャンパス) オープニングセッションでスタート(写真下)。



「国都市再生まちづくり会議」という名称にて2005年にスタートし、2022年で述べ17回の開催となった「全国まちづくり会議」。当イベントは“草の根まちづくり”を中心とした議論を行うと共に、JSURPが行う各種事業や取り組みを発表する場に位置づけています。各種提言の発表や日本都市計画家協会賞の受賞団体プレゼンテーション、閉会式でのまちづくり大賞の発表、各種研究会の発表と成果の共有、さらに都市計画やまちづくりに関する様々なフォーラムの開催も行われるようになりました。内容の充実により全国まちづくり会議は、まちづくりに関わる地域住民や一般市民から行政職員、企業関係者、コンサルタント、他業種の専門家、学識経験者など、他に類を見ない多

様な参加者により活動の幅を広げています。



全国まちづくり会議2022 in 東京・すみだでの全国のまちづくり団体のポスターセッション。



全まち会議2018 in福岡での日韓まちづくりフォーラムには韓国からも多数来場。

J's カフェ

J's カフェは「都市×○○」をテーマに、まちづくりと関連する様々な分野の人が交流する“プレゼンテーション+懇親会”の交流型イベントです。



「関内外OPEN!の話」では横浜市文化観光局の安藤さん、横浜市芸術文化振興財団の杉崎さんをゲストに横浜のクリエイターの活動展開についてトーク。



「次世代郊外まちづくり」では東急の東浦さん、横浜市の秋元さんをゲストに官民連携まちづくりについてトーク。



J'sカフェでは毎回フード&ドリンクを用意し、飲食を共にしながらゲストと参加者が気軽に交流できる場づくりを。



動産、食、ファッション、写真、観光、メディア、色彩、環境、ITといった多岐に渡るテーマのスペシャリストを毎回、ゲストスピーカーとして招き、トークと食事+お酒などを楽しみながら意見交換をするイベント“J'sカフェ”を、JSURPでは2014年から開催しています。毎回、リラックスした雰囲気の中、20~30人の参加者で行われています。

食事の提供は、当初から東北の復興支援を意識し、東北の食材を使った料理の提供をするとともに、地元神田の飲食店からのケータリングを依頼するなど、“カフェ”という名称ならではのテーマ性を持った食事提供を行っています。

JSURP まちづくりカレッジ

JSURP まちづくりカレッジは、都市計画・まちづくり分野の実務に携わる人をターゲットにしたシティラボ東京で行われる5回1セットの連載講座。講師と受講生とのインタラクティブなやり取りを行います。



「まちの可能性を切り拓くモビリティデザイン」では横浜国大の中村文彦先生をメイン講師に(左)。初回には懇談会を開催し交流を深める(右)。



まちづくりカレッジのスピナアウトシンポジウム企画「マスタープランは必要か?」(2017@東京大学)も開催された。

2 015年度から始まり、2021年までで37講座、延べ800名あまりの受講生が参加し、都市計画やまちづくり、その周辺分野で実務に関わる比較的若手の社会人をターゲットにした“実務に役立つ講座”を実施しているイベント「JSURP まちづくりカレッジ」。講座のテーマとして、ベーシックな都市計画の基礎や防災、公共

交通、高齢社会のまちづくりなどからエリアマネジメント、プレイスメイキング、クラウドファン্ড、パブリックスペース、食とまちづくり、シビックテックなどといった最近注目のテーマまで、幅広いテーマを設定し、毎年複数の講座を同時並行で実施しています。

じっくり学んでもらうことを主眼におき、各講座はいずれも5回を1セットとすることで、単なる一方的なレクチャーではなく、講師や受講生同士のディスカッションを重視。刺激を与え合いつつ、それぞれの現場で活かせるノウハウを学んでもらうことを意図しています。プロデューサー陣も多様な専門分野・世代にわたり、彼らがプロデュースする各回講座のゲスト講師陣も豪華なキャストとなり、本イベントの魅力となっています。

まちづくり出前講座

まちづくり出前講座は、まちづくりを推進しようとする自治体や地域からの要請でJSURPのスタッフが現地へ伺い、ノウハウをお伝えする講座です。



まちづくり出前講座を担当した講師陣と講座を受けた各地の方がシティラボ東京で集結し開催された「地域主体のまちづくりフォーラム」



2019年度は全国13地域に向向いて講座を実施。南三陸町(上)は復興した商店街の活性化、笠間市(下)は中心商店街の活性化がテーマ。

各 地の自治体や地域に向向き、まちづくりのノウハウをお伝えする「まちづくり出前講座」は、2017年から始めた事業です。

対象が自治体の場合は、住民とのやりとりや実際に地域に入る場合のポイント、まちづくりの政策立案の考え方などをテーマに、職員研修としてのワークショップ形式で実施します。

地域の場合は、まちづくりを推進している住民の皆さんと意見交換をしながら、3回の講座を通して、その地域の今後の方向性を考えて次のステップに進める後押しをするのが主な目的です。2022年度は9の地域・自治体で出前講座を開催しました。

JSURPでは、まちづくりの知識とネットワークを活用しながら復興のお手伝いを行ってきました。

2011年に起きた未曾有の広域大災害「東日本大震災」において地域の方々と活動を共にした震災復興まちづくりをご紹介します。



大船渡市の地域のシンボル「夏虫山」から見た越喜来地域と湾の風景。右下)中赤崎地区のまちづくり構想パンフレット。

復興支援は重要なミッション

JSURPでは2004年の中越地震、2011年の東日本大震災について復興まちづくりの現地支援を行ってきました。震災が発生すると当協会のメンバーは、まず最初に現地に入ります。そして支援を必要としている特定の地区で地域の方々との対話を繰り返しながら、その土地に合った復興の方向性を、じっくり時間をかけて探していきます。

東日本大震災の復興支援は、2012年3月から岩手県の陸前高田市で、2013年4月から大船渡市で始まりました。陸前高田市

では、仮設商店街建設のための支援、大船渡市では3地区(浦浜泊地区、甫嶺地区、中赤崎地区)で復興まちづくりのビジョンづくりに着手。3地区それぞれ、復興まちづくりの方向性や課題はもちろん、地域の方々の気質も考え方も異なるため、私たちはその地域に合ったやり方を模索しながら、皆のペースに合わせて進めることを重視しました。

大船渡市の浦浜泊地区は、地域の復興プランの作成後、様々な場所をつくる実践に着手することに。そのなかでも津波を耐えた「ど根性ボプラ」のある広場は、地域のシンボルになりました。

甫嶺地区は被災規模が大きくなかったこともあり、当初は復興まちづくりに消極的でしたが、被災した低地に蕎麦を植えて、蕎麦打ちの会や、地域資源の金山跡地ツアーを開催したりする中で徐々にイベントが活発化。その結果、まちづくり活動に参加する人も増えていきました。

中赤崎地区は、当初は復興が遅れているという焦りから行政と対立することもしばしば。しかし、話し合いを続ける中で、行政に要望を出すだけでなく、やるべきことを明確にし、徐々に建設的かつ実現可能な計画を、自ら作成するほどに。

東北の現場の 方々からの声



迎山 光

(大船渡市役所
災害復興局
土地利用課)

東日本大震災後の早い時期から、JSURPの方々は足繁く大船渡市に通い、地域の方々と議論を重ねてきました。広場の整備や緑化・植栽などの実践や、それらを持続的に維持管理するための仕組みづくりまで活動は及び、時には地域と行政の双方の意見調整も行っていました。多方面から信頼と期待を寄せられ、迅速な行動力にも驚かされるばかりです。



大船渡市中赤崎地区は2015年から5年間支援を行ってきた。30回以上、住民とのワークショップを重ね、地域の復興まちづくり構想を作成(2020年時点で、改訂版も制作)。それらの計画パンフレットは地域住民全世帯に配布している。



2012年から支援する陸前高田市・未来商店街。市街地が造成するまでの仮設商店街を、より魅力のあるものにするために、模型を使って出店者たちと検討。



片山和一良

(浦泊まちづくり委員会・委員長
南区自治会会長)

まちづくりはアドバイザーからのプラン提案で完成すると思っていましたが、JSURPの“まちづくり”は、地元の考え方や地域が持っているものを探するという地道な作業の繰り返しでした。これが一番ということや、近道は無いということを知りました。今後は自分たちで運営する必要があるため、後継者の育成や運営のノウハウを感知する1年にしたいと思っています。

まちづくりの面白さも伝えたい

震災復興の支援では、いずれの土地においても、皆、自分たちが誇れるような新たな場所をつくりたい、そしてそれを早く実践したいという気持ちを強く感じてきました。我々JSURPでは、地域の方々に指導するのではなく、常に側に寄り添いながら、共に解決策を考えることで、自ら将来の方向を見つけてもらい、そこに向かって歩み出せるお手伝いをしてきました。一緒に実践する中で、まちづくりのやりがいや面白さも感じてもらう。それが私たちの“寄り添い型”の支援なのです。



2013年から支援した大船渡市越喜来(浦浜泊地区、南嶺地区)は未だに交流が続いている。地域のまちづくり構想の作成から、地域活動まで協力して進めてきた。



村上俊之

(田谷地区
集団移転協議会
事務局長)

JSURPには何から何までお世話になりました。防災集団移転促進事業による田谷住宅団地の完成及び住宅再建。被災低地の活用ワークショップ。「逃げ地図」活用による防災教育と避難経路確認、防災まちづくり大賞消防庁長官賞の受賞など。私のJSURPとしての活動「まちづくり協議会」は冬眠中ですが、田谷地区での復興事業が一段落したら復活予定です。

JSURPの活動を 支えてくれた方々

JSURPが主催・開催する活動に関わる方々、
イベントに参加した方々が、
それらの機会を通して感じたことや得られたこと、
これからの目標などを、コメントと共に紹介します。



谷保明洋

(国土交通省北海道開発局 / (一社) NORTH ReDESIGN)

公務員として各地域で事業を遂行し、プライベートは地域に密着し皆さんと共に活性化を目的に活動。

様々な活動を学んだ 全国まちづくり会議

2019年に“全国まちづくり会議”に初めて参加させて頂きました。活動・内容を肌で感じ、日本都市計画家協会賞に応募した「TOKACHI ICE PARK」に評価を頂けたことは、地域の励みになりました。まちづくりへの活動・支援は地方都市では特に必要とされていることであると感じ、JSURPが様々な視点で取り組む活動が、地域にとっても大切なものと感じています。

全国のプレイヤーと 繋がることは最大の収穫

2019年全国まちづくり会議の準備に関わった過程で、まちづくりに関係する学識、コンサル、学生等、多様な皆様と議論を重ね企画を積み上げる貴重な経験ができました。竹中工務店社屋を会場として活用頂いたことで、弊社内の関係者が全国で活躍する方々と繋がりができたことも収穫です。これからはネットワークで社会課題を解いていく時代で、必ずやこの集まりが力になると確信しています。

中小都市での 都市計画のヒントとは？

2016年にJ'sカフェへ参加したことを契機に、まちづくりカレッジやシンポジウムなどに参加し、2019年度はまちづくり出前講座を職員向けに開催していただきました。大都市や過疎地向けの都市政策はよく見聞しますが、東松山市のように大都市周辺の中小都市に関する都市計画制度には限界を感じています。この閉塞感の解消に向けたヒントをいただけるようにJSURPの活動には期待しています。



原 徹

(東松山市役所
都市整備部部长)
都市整備部門の土地区画整理、開発許可の他に税や年金、医療事務、地域支援、教育委員会などに従事。



高浜洋平

(竹中工務店
まちづくり戦略室 副部長)

竹中工務店まちづくり戦略室にて社会課題解決や事業創出をテーマにまちづくりに取り組む。



富谷 正明

(東京建物株式会社 まちづくり推進部 シティラボ東京プロジェクト・マネージャー)

早稲田大学修了後、三菱地所設計を経て東京建物入社。2018年シティラボを立ち上げる。

サステナビリティの関心と まちづくり専門家の重要性

持続可能な都市づくりを目指す「シティラボ東京」を、JSURPの方々と共に立ち上げ、約1年が過ぎました。サステナビリティへの関心の高まりに伴い、多様な分野とのコンダクターとして、まちづくり専門家の重要性は今後さらに高まると実感しています。東京駅前の八重洲・日本橋・京橋地区等の当社の開発事業でも皆様とご一緒させて頂ければと思います。



八木賢一

(だるまや京染本店 / 平塚まちなか活性化隊)

平塚生まれ、平塚育ち。大学卒業後、NTTコミュニケーションズ勤務を経て、家業の呉服屋を継ぐ。

出前講座で学んだ拠点づくりの楽しさ

街中に活動の拠点を作ろうという“まちなかベースプロジェクト”を企画し、JSURPの出前講座を依頼しました。当初は、まちなかベースプロジェクトの実施を悩んでいるメンバーもいたのですが、拠点を作る面白さや、そのことで生じる交流の話を聞き、やってみようという気になりました。構想から1年半後、2020年2月1日、まちなかベース「きちきち」をオープンすることができました。

積極的な意見交換で 施設運営のアイデアを

まちなかの活性化と公共施設の有効利用について、若手中堅社員を対象として開催していただいた“まちづくり出前講座”で、日頃関わりの少ない職員とも意見交換を行うことができ、大変有意義な機会となりました。現在検討している公園や駅前の公共施設の管理運営への地域の関わりについて、参加した職員を中心に取り組んでいければと思います。

草の根まちづくりの 活動・繋がりを大事に

まちづくりはローカルに立脚しながらも、地域や国境を越えた様々な人々と活動と触れ合い、相互に強化し合う“網の目のような繋がり”になろうとしています。まちづくりを越えた実務者・研究者を大胆に取り込みながら、新たな人材とエネルギーを生み出すインキュベーターとなることをJSURPには期待しています。



志村 秀明

(芝浦工業大学 建築学部 教授)

全国まちづくり会議2019 in 東京・実行委員長、北海道工学部土木工学科および熊本大学工学部建築学科卒業、早稲田大学大学院修士課程・博士課程修了。

山田 篤史

(長泉町 都市環境部門 建設計画課 計画チーム)

長泉町で生まれ、ほぼ長泉町育ち。職場では10年以上都市計画に関わる。休日はバレーボールなどで汗を流す。

まちづくりを考える人は 誰にでもオープンに

僕とまちづくりカレッジの関係は面白い。ゲスト講師で登壇し、受講生をやり、プロデューサーもやらせてもらった。その面白さは、自分の愛着のある都市と似ている。歩き回って好きになって、頭で理解して課題解決の提案をするように。都市を考える人は、いつも誰にでもオープンでフラットで興味深々、そんな場があるカレッジの次の展開に目が離せない。



西田 司

(建築家 / オンデザイン代表)
東京理科大学准教授、明治大学特別招聘教授。著書に「建築を、ひらく」「オンデザインの実験」

まちづくりの議論が 現職への礎となりました

私とJSURPとの出会いは1994年の「第1回都市計画キャラバン」。全国から都市・地域計画の専門家の方々が集まり、開催都市のまちづくりの課題を集め、泊まりがけで議論しました。当時20代後半の私は、何が何か分からないうちに超大型台風巻き込まれていましたが、振り返ると、その経験が現職につながっています。

相田 和規

(長岡市役所 都市整備部 都市計画 課長)
福井県鯖江市生まれ、縁あって新潟県長岡市に永住。バブル後、都内ゼネコンから地方職員へ転職。



まちづくりカレッジ などの活動拠点



写真提供：東京建物（株）



● シティラボ東京（City Lab Tokyo）

都市や環境、異分野の交流を通した新しい社会価値の創造を目指すために、東京・京橋に設立されたオープンイノベーション拠点。JSURPのパートナーとして「まちづくりカレッジ」などのプログラム提供等で連携しています。

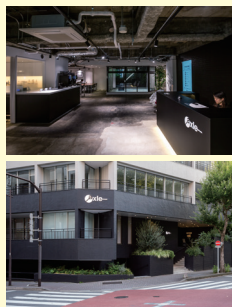
企画は東京建物（株）、運営は（一社）アーバニスト。

Data

- 住所：東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン6階
- URL：<https://citylabtokyo.jp>

JSURP information

日本都市計画家協会（JSURP）事務局



JSURPの新たな創発拠点

JSURPは、将来の都市の姿、そして都市計画・まちづくりのあり方を見据えながら「常に創造・発信する運動体」として活動を展開しています。

本拠地は、イノベーションを起こすことを目的とした新しいタイプのワークスペース・シェアオフィス「axle 御茶ノ水」です。

都市やまちづくりに関わる方々・興味をお持ちの方々、お近くに来られる際にはぜひお立ち寄り下さい。またイベントなどの最新情報はHP、フェイスブック、メルマガ等で随時発信していますので是非アクセスしてください。

【JSURP 2022-2023年度執行体制】

会長／山本俊哉	専務理事／渡会清治
副会長／坂井猛	常務理事／中川智之
高鍋剛	牧敦司
江田隆三	事務局長／千葉葉子
原拓也	

Data

- 住所：〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-28-5 axle 御茶ノ水306号室
- 電話：03-6811-7205 ● FAX：03-6811-7206
- E-mail：jimukyoku@jsurp.jp
- URL：<https://www.jsurp.jp/> ● Facebook：[facebook.com/jsurp](https://www.facebook.com/jsurp)